

事業評価シート（平成26年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	高等学校等修学支援事業		
事業担当	学校教育部 教育総務課		
事業種類	ハード	ソフト	
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'01	人間力 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	'05	5 基礎的な学力を身につけ、個性を伸ばす教育を充実する	
根拠法令等	平塚市教育委員会高等学校等修学支援金規則		
対象・受益者	高等学校等に通学する生徒	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
	目的・目標		事業の概要
勉学に意欲的で経済的な支援が必要な者が、高等学校等において修学する機会を得ています。		高等学校等における修学支援を行うため、修学支援金を支給します。	

2. 事業の検証

活動指標	指標名	修学支援金支給人数				単位	人
	説明・算定式						
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	目標	176	160	140	120		
	実績	173	160	140			
活動指標	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	目標						
	実績						
成果指標	指標名	修学支援生卒業率				単位	%
	説明・算定式						
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	目標	100	100	100	100		
	実績	92.86	100	100			
成果指標	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	目標						
	実績						
進捗状況	: 予定どおり						
	遅れている理由						
平成26年度の主な取組と成果							
修学支援金を支給し、勉学に意欲的で経済的に支援が必要な生徒に修学機会を与えました。							
平成26年度の検証結果	A : 成果があがった						

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	市民ニーズ 事業目的の達成状況 市の関与の必要性 その他	経済的理由により高等学校等に修学することが困難な者に対して、修学の機会を与えることは必要です。申請件数は多く市民ニーズは高いと考えられます。	高低
	有効性	上位施策への貢献 市民満足度を高める方策 継続による成果向上の可能性 その他	勉学に意欲的な高校生等が経済的理由で修学機会を得られなくなることを防ぐよう事業を継続して行なう必要があります。	高低
	妥当性	事業の目的、対象、内容 受益者負担、補助額 業務の執行体制(人員配置、業務分担) その他	神奈川県高校生等奨学給付金については併用可能とし、給付対象となる生徒の修学支援金額を減額することとしました。また、事業目的を踏まえ学業成績の基準を見直しており、妥当と考えます。	高中低
	効率性	業務プロセス改善による効率化の方策 コスト削減の可能性 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) その他	返還義務のない奨学金の充実が求められています。	高中低
今後に向けた課題の分析 引き続き国や県が実施する高校生等への奨学事業に注視し、本事業を展開していく必要があります。				

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 決算額	平成27年度 予算額
事業内容		修学支援金の支給	修学支援金の支給	修学支援金の支給、修学支援事業内容の見直し	修学支援金の支給
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	14,532	13,440	11,753	9,519
事業費 (A)		14,532	13,440	11,753	9,519
執行率 (%)		98.30	100.00	99.94	

4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

平成28年度の取組方針 平塚市教育委員会高等学校等修学支援金規則に則り事業を継続して実施するとともに、今後の国や県の政策等を踏まえ事業のあり方について検討を進めます。
課長コメント 高等学校等での修学を継続するためには授業料以外の支援も必要であることから、事業の継続が必要と考えます。